編集後記

大変厳しい寒さが続きましたが、会員の皆様如何お過しですか。勤務校の窓から見る十文字原や扇山、そして鶴見の雪が今年ほどいつまでも残っていたことは本当に珍らしいことでした。そのような中で本年の最終号の編集をやっと終えることが出来ました。宇佐宮の宿直体制の古代から近世にかけての変遷を論じた乙咩氏、一一〇号に引続き民権期の県会を中心とする「地方自治」をとりあげた野田氏、さらに大分県における米騒動の実態と市町村の対応を具体的に扱った三重野氏の各論説、そして本県の地券発行について河野氏、幕領農民の負担の具体的な史料を佐藤氏が紹介され、さらに山国町の文化財愛護活動の歩みを泉氏が報告してくれるなど多くの方々のバラエテイにとんだすぐれた寄稿をいたゞくことが出来て感謝しています。大分県部落史研究会では「おおいた部落解放史」を創刊しましたが、神崎氏は事務局長として研究会の活動について報告され、皆さま方の深い理解と協力を寄びかけています。

（吉田）

昭和五十九年三月二十五日　印刷
昭和五十九年三月　三十　日　発行

大分県地方史　第一一三号

編集者　吉田豊治
発行者　渡辺澄夫
印刷者　中尾寿孝
印刷所　別府市中央町九―一五
日の丸印刷株式会社
（電話　㉒〇三四一）

発行所
〒八七〇―一一　大分市旦ノ原七〇〇
大分大学教育学部国史研究室内
大分県地方史研究会
（振替・下関八―五二九四番）